

第60回

Koei Vietnam KOEI VIETNAM CO.,LTD



KOEI VIETNAMは、弘英産業株式会社の初の海外拠点として2011年に設立されました。KOEI VIETNAMはプラスチック材料、プラスチック製品、機械設備などの輸出入及び販売を行っており、2012年にはベトナム企業との合弁により、ビンズン省のMy Phuoc3工業団地内にプラスチックパレット等のプラスチック成型品を製造するKoei Toda Industries Joint Venture Companyを設立しています。今回は、そんなKOEI VIETNAMの大石社長にお話を伺いました。

●事業内容

プラスチック材料、プラスチック製品、発電機、工作機械、旋盤、フライス盤、プラスチックなどの輸出入及び販売

●所在地

MF EMPIRE TOWER 26-28 Ham Nghi st, Dist1, HCMC

●日本本社

弘英産業株式会社
東京都江東区三好4丁目6番2号 弘英ビル4階

●ホームページ

<http://www.koei-ltd.co.jp/>

― ベトナム進出の経緯を教えてください。
弊社の親会社であります弘英産業は、東京都江東区に本社を置き1984年に設立された企業です。日本本社の主な事業内容は、プラスチック材料のコンパウンド、ウッドプラスチック製品の製造、プラスチックパレットの製造、中古機械、製造ラインの買取及び販売、輸出入などを行っており、茨城県と神奈川県に工場があります。

日本の工場では、プラスチックの廃材をリサイクルして、プラスチック材料を製造しており、高いリサイクル技術を有しています。そんな中で、海外に置いて日本の高いリサイクル技術を生かした物作り事業ができないかと考えるようになり、中国、タイ、韓国、台湾、ベトナムを視察して、進出の可能性を検

討した結果、ベトナムが今後の将来的な経済発展の可能性が高く、日本の高いリサイクル技術に対する需要も今後増加すると見込まれましたので、ベトナムへの進出を決めました。ベトナムではハノイとホーチミンが2大都市としてあり、当然どちらも進出の候補になりましたが、北部は、政治の中心で大手企業の進出が多く、南部は商業として中小企業の進出が目立っており、当社の規模から言ってもホーチミン市への進出が最適ではないかと考え、ホーチミン市への進出を決定しました。

進出時から、プラスチック材料などの輸出入及び販売とプラスチック成型品の製造を行いたいと考えていましたので、まず最初に弘英産業の100%子会社である、KOEI

VIETNAMを2011年にホーチミン市に設立し、その後、日本の技術でもの造りをしたいと考えていたベトナム企業であるTODA INDUSTRIALと合弁でKOEI TODA INDUSTRIESを、ビンズン省のMy Phuoc3工業団地内に設立しました。My Phuoc3工業団地を選んだのは、賃貸料が相対的に安かったこと、地盤が固いこと、建物の天井が高かったことなどが決め手となりました。KOEI TODA INDUSTRIESでは、3000トンの大型成型機を使用しますので、どうしてもこのような条件が必要でした。

― ベトナムでの事業内容を教えてください。

KOEI VIETNAMは商社として、日本やア



note2...



note3...



note4...

アメリカなどから輸入した廃プラスチック材の販売や、KOEI TODA INDUSTRIESで製造されたプラスチック成型品の輸出販売などを行っています。一方KOEI TODA INDUSTRIESには、3000トンというベトナムでは最大規模の成型機が1台と押出機が10台あります。主な製品は、プラスチックリサイクル材料を用いたパレットなどの大型プラスチック成型品と、廃プラスチック材と廃木材を混合したウッドプラスチック製品となっています。ウッドプラスチック製品は従来、廃棄され燃やされてきた廃木材と廃プラスチックを原材料としており、環境保全、資源の有効活用が可能です。ウッドプラスチック製品は、木材的な外観とプラスチックの耐久性を兼ね備えており、日本では、公共施設や一戸建て住宅のルーバー、フェンス、デッキ、ベンチなど様々な用途で使用されています。現在は日本への輸出が中心ですが、一部はベトナム国内のリゾート施設や高級住宅街のプロジェクトにも納めており、今後、ベトナムでの需要も開拓していきたいと考えています。

パレットの方は、殆どが在ベトナムの日系企業向けの販売となっています。ベトナム企業は木製のパレットを使用することが多いですが、今後は、耐久性に優れたプラスチックパレットの良さをもっとローカル企業にもアピールしていきたいと考えています。

弊社の特徴は、全て日本製の機械・設備を使用し、日本の技術で高品質なものの造りが可能な点と、廃プラスチックや廃木材を使用した環境負荷の低いもの造りにあります。

― ベトナムで事業を行うにあたり困った点がありますか？

ベトナムでは、商社のライセンスは、取得が難しいとされていますが、当社の場合は、スタッフやパートナー企業の協力もあり、比較的スムーズにライセンスの取得から事業開始までを行うことができましたので、設立に関しては特に困ったことはありませんでした。勿論、事業を開始してからは、ベトナムならではの問題や課題もありましたが、なんとかそういった課題を一つ一つ乗り越えながらきたという感じです。ただ、最近最も困ってい

るのが為替の影響です。当社が進出した当時は1ドルが90円程度でしたが、現在は120円近くまで円安が進んでおり、ベトナム進出のメリットが薄れてきているのも事実です。これに対しては、弊社の日本工場で製造したりサイクルプラスチック材料を、ベトナム工場に供給したり、人件費のメリットをいかして組立の多い製品へシフトしたり、販売価格を見直したりといった方法で何とか対応しています。

― 社員への評価は如何でしょうか？

現在、KOEI VIETNAMが、日本人1名を含め6名、KOEI TODA INDUSTRIESが日本人1名を含め40名の従業員がおります。ベトナム人スタッフは真面目でよく働く人が多いと感じていますが、その一方で、きちんとしたマネジメントを行い、社員のモチベーションを高めるための適切な指導が必要だと考えています。また社員同士のコミュニケーションを高めるためにも、年1回の社員旅行や、3ヶ月に1回程度の食事会なども行っています。昨年はブンタウへ社員旅行に行きましたが、多くの社員が喜んでくれていました。

― 今後の事業計画を教えてください

現在、当社では毎月ウッドデッキを約40トン、プラスチックパレットを1万枚製造しています。ウッドデッキは、殆どが日本への輸出となっていますが、今後はベトナム国内での販



note5...



note6...

売にも力を入れていきたいと考えています。パレットにつきましては、在ベトナムの日系企業様に対する認知度の向上と、ローカル企業への販売を更に強化していきたいと考えています。また、最近ではベトナム企業のプラントで製造されたポリスチレンを日本へ輸出する事業もスタートさせました。今後はベトナムで培ったネットワークを十分に活用して、ベトナム企業の製品を日本へもっと紹介していければと考えています。

ありがとうございました。



note7...